

資料 2

令和2年8月3日 第1回 歴史文化保存展示施設専門検討委員会

浜田市の「歴史文化保存展示施設」 の整備方針について（令和2年2月）

浜田市長 久保田章市

1

1.これまでの経緯

- 平成 12 年（仮称）浜田総合博物館 構想
- 平成 14 年（仮称）浜田総合博物館 基本計画
- 平成 21 年 中央図書館整備との併設検討 ⇒ 見送り

- 平成 27 年 11 月～平成 29 年 3 月 浜田城周辺整備検討会
⇒ 「資料館整備を進めたい」、
「財政負担をできる限り抑制すべき」
- 平成 29 年 3 月議会 整備事業予算案を提出 ⇒ 取下げ
- 平成 31 年 4 月～令和元年 9 月（仮称）浜田歴史資料館検討会
⇒ 「整備には大半が賛同」、
「建設費、運営費はできるだけ圧縮すべき」

2

2.整備方針を検討するにあたって

- 当市には、「歴史民俗資料館」等の施設が **6 施設** がある。
- 多くは **老朽化** が進み、特に「**浜田郷土資料館**」は、
築 60 年以上経過し、老朽化が著しく、**展示スペースが狭い**。



①浜田郷土資料館



②金城民俗資料館



③金城歴史民俗資料館



④旭歴史民俗資料館



⑤弥栄郷土資料展示室



⑥三隅歴史民俗資料館

3

「歴史文化保存展示施設」と呼ぶことについて

- これまで、検討する対象施設の名称を、
「(仮称)浜田歴史資料館」と呼んできた
- しかし、当市には、
「郷土資料館」、「歴史民俗資料館」など、様々な呼び名の
類似施設が6ヶ所ある
- これら施設は、「歴史文化資料を保存・展示する施設」であり、
今後、**共通名称として、「歴史文化保存展示施設」と呼ぶ**
(なお、個々の施設名は、従来の名称のまま)

4

3.「歴史文化保存展示施設」の整備方針骨子

① 浜田郷土資料館

- 中核施設として、**建替え整備**し、「ふるさと郷育」等に活用。
- 整備費、運営費を安価にするため、「**世界こども美術館**」に増設。
- 整備費約**7億5千万円**は、過疎債を活用することにより、**全額を「国の補助」と「ふるさと寄附」で賄い、市の「一般財源」は、使わない。**

② 他の5施設

- 当該地域で見ってもらうよう、**支所等のスペースを活用**し、展示。
既存資料館は、**資料保管**として利用し、調査・研究等に対応。
- なお、金城の2施設は、現行のまま活用する。

5

それぞれの施設の整備方針

施設名	延床面積	築年数	今後の方向性
① 浜田郷土資料館	480 m ²	60 年	建替え整備
② 金城民俗資料館	269 m ²	47 年	現行のまま 〔一部は岡本甚左衛門関係の資料とともに、支所の空きスペースを活用して展示〕
③ 金城歴史民俗資料館	175 m ²		
④ 旭歴史民俗資料館	388 m ²	39 年	・ 支所等の空きスペースを活用して展示 ・ 既存施設は資料保管として利用し、調査・研究等に対応
⑤ 弥栄郷土資料展示室	174 m ²	15 年	
⑥ 三隅歴史民俗資料館	406 m ²	41 年	

6

説明1 「歴史文化保存展示施設」の目的と意義

□古くからの歴史を有し、市民憲章で「文化のかおるまち」を掲げている当市にとっては、3つの役割を担う必要不可欠な施設。

□3つの役割

- ① 歴史・文化の保存・継承の拠点
- ② ふるさと郷育の拠点
- ③ 市民や観光客の交流拠点

□特に、②ふるさと郷育は、「ふるさと浜田」に誇りと愛着を持ってもらう重要な教育。

人口減少が進む当市にあって、一旦、市外に出た若者が、将来 Uターンしてもらうためにも必要な施策。

7

説明2 「浜田郷土資料館」を建替え整備する理由

- ① 築 60 年以上が経過し、老朽化が著しい。
- ② 展示スペースが狭く、保有資料の多くが展示できていない。
 - ・保有資料 約 12,000 点
 - ・寄贈資料 年間 100～200 点
 - ・展示可能 年間約 500 点
(常設展示 100 点、企画展示 400 点 (100 点×4))



8

説明3「世界こども美術館に増設」とする理由

□3つの案を検討

- 案1（検討会A案） 御便殿（浜田城資料館）隣接地に新設
 案2（検討会B案） 中央図書館隣接地に整備
 案3（検討会C案） 世界こども美術館に増設

□次の理由で「案3」としたい

- ① 整備費、運営費が他の案と比較して最も安価
 ② 隣接地に建設予定の「子育て包括支援センター」との連携活用
 ③ 駐車場が確保でき、津波の心配がない

単位：百万円

	案1	案2	案3
整備費(※)	1,146	1,389	753
うち 建物	844	1,087	451
運営費 (追加分、年間)	54	55	11

※ 整備費のうち、展示関係は、3案とも302百万円と試算。

9

説明4「整備費」と「運営費」について

□整備費は約7億5,000万円、

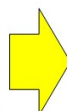
運営費（追加分）は年間約1,100万円を見込む。

□整備については、過疎債を活用し、

整備費全体の約6割は「国の補助」、残り4割は「ふるさと寄附」を財源に充て、市の「一般財源」は、使わない。

単位：百万円

	費用	過疎債 対象費用
整備費	753	633
建物	451	451
展示	302	182
運営費 (追加分)	11	0



単位：百万円

国の補助 (交付税措置)	ふるさと 寄 附	一般財源
443	310	0
315	136	0
128	174	0
0	0	11

10

説明5 「世界こども美術館」はどうか

□ 1 階海側の空き地に「歴史文化保存展示施設」を増設。

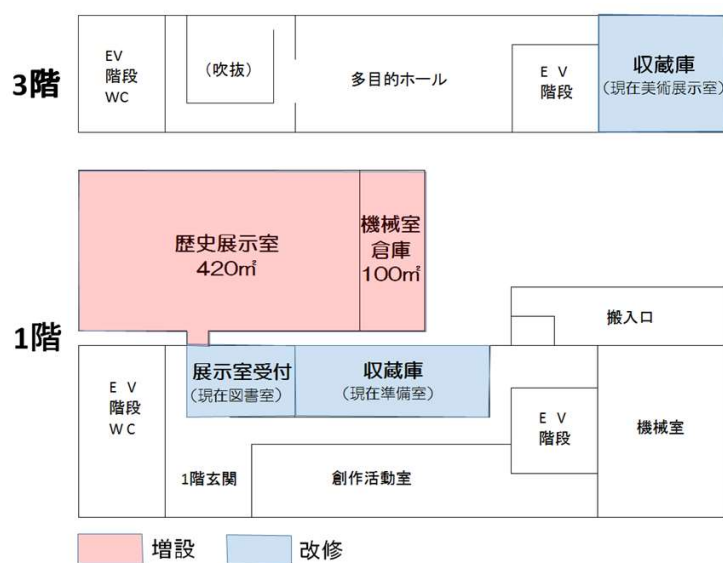
3 階多目的ホールの後ろに収蔵庫を設置。

□ 世界こども美術館の機能は、「現状どおり維持」。



11

増設・改修部分の平面図



12

説明6「展示」のイメージ

歴史	民俗	偉人
 中世の土器や石器  浜田城下町絵図	 明治・大正の民具  昭和の民具	 柿本人麻呂の紹介  島村抱月の紹介

13

説明7 想定している「利用方法」(「ふるさと郷育」の場合)

学校教育	小学校	社会科	・昔の道具調べや生活の移り変わりを学習する。 ・浜田と日本の歴史を関連付けて学習する。
		理科	・大地のつくりを石見畳ヶ浦の化石から学習する。 ・日本唯一の岩石である黄長石霞石玄武岩を学習する。
		総合的な学習	・学校周辺の歴史や偉人、石見神楽等の身近な歴史文化を学習する。
	中学校	社会科	・浜田と日本の歴史を小学校より掘り下げて学習する。
		理科	・浜田地震等により災害や大地変動を学習する。
		総合的な学習	・市全体の視点から歴史や伝統文化等について、生徒が考えながら取り組む学習を行う。
	※ 小・中学校と資料館の移動はスクールバスを使用		
	高校		・文化関係の部活動に活用する。 ・授業へ資料を提供し、生徒の関心を高める。
	大学等		・ゼミやレポート作成に活用する。 ・県外出身の学生に浜田の歴史文化への関心を高める。

14

説明8 今後のスケジュール

期間	内容
令和 2～3 年度	「専門家による検討委員会」において検討
令和 4 年度	設計業務委託
令和 5～6 年度	建設工事、展示準備 等
令和 7 年度	開館